

◆ 令和2年7月豪雨の被災に伴う第39回災害ボランティア活動として、  
8月1日（土）福岡県朝倉市杷木寒水において復旧活動を実施しました。

今回の活動は、朝倉市地元の方々と若者で立ち上げられた「一般社団法人Camp」（代表者 望月 文 氏）と連携しながらの作業となりました。朝倉市では、周辺の久留米市、大牟田市などのように報道はあまりありませんでしたが、線状降水帯の影響もあり水害が発生しておりました。

当金庫では、通算第39回目の災害ボランティア活動を、朝倉市杷木において有志5名と被災された住宅の所有者と一緒に、床下の土砂の撤去作業を実施しました。活動現場は3年前の九州北部豪雨に引き続き今回の豪雨で2度にわたり被災された個人住宅の土砂撤去作業でした。

当日は、9時45分朝倉市杷木寒水に集合し、体調アンケート、体温チェック、アルコール消毒と新型コロナウイルス感染防止に注意しながらの受付をしました。

受付後、現場近くの公民館に荷物を置かせていただき、徒歩で数分の現場へ向かいました。周辺は水害等の処理のため土石運搬のダンプカーが早朝から埃をまき上げながら行き交う状況です。

作業内容は、床下に溜まった土砂をスコップでかき出し、手箕（テミ）で軽ダンプに乗せて捨てに行くことの繰り返しでした。しかしながら、土砂が粘土質でありまだ水が溜まっている状況であるため、スコップでかき出すのも、手箕で軽ダンプにのせるのもスムーズにいかず非常に疲労感がたまりやすい作業となりました。14:30に作業を終了し、後片付けをしたのち15:00に解散となりました。

ボランティア参加者の皆様お疲れ様でした。また、一般社団法人Campのスタッフの皆様早朝からの準備お世話様でした。ありがとうございました。

以 上

（集合写真）



(活動状況)

